

静岡大学技術部全学組織化について

静岡大学工学部・技術部
○江藤昭弘
teaetou@ipc.shizuoka.ac.jp

1. はじめに

静岡大学工学部技術部は、平成 23 年 1 月に組織改組をおこない 1 年が経過しようとしている。この間に、新たに全学技術部組織の設置を目指して学部間での検討が進められてきた。当初は平成 25 年実施を予定していたが、実施時期を早めることになり平成 23 年度内もしくは平成 24 年度早々に全学技術部組織（新技術部）への移行を目指すことになった。

今回は、新技術部設置の目的および新しい技術部組織をどのように構成してゆくか、業務内容等について報告する。

2. 新技術部の設置目的

情報・安全・機器分析などの全学に共通した技術ならびに各部局の基盤となる技術や、装置開発等の高いレベルの技術を持つ技術職員の全学的活用を図り、教員・学生および実習・実験等の研究・教育向上のための技術提供を行うとともに、限られた数の人材を活かすための組織を作ることを目的としている。

3. 新技術部の業務と組織構成

新技術部は、各部局の技術部を統合し独立した組織となることから、全学的な業務を担うとともに、各部局ならびに学科・研究室からの技術支援要請にも応えられる業務体制の構築を目指している。

3. 1 新技術部の業務

- ・新技術部は、静岡分室および浜松分室の 2 分室に分ける。
- ・静岡分室には教育学部・理学部・農学部の各技術部を統合し、教育研究支援部門ならびにフィールド支援部門の 2 部門を新たに設ける。各部門の業務を下記に示す。
 - 1) 教育研究支援部門は情報・安全衛生・共通機器管理等の全学共通業務が主となり、次に学部・研究室への技術支援をおこなう。
 - 2) フィールド支援部門は、県内に分散している実習林、農場などの維持・管理運営等の支援業務をおこなう。
- ・浜松分室は工学部、情報学部、電子工学研究所の各技術部を統合し、共同研究支援部門、教育支援部門、情報支援部門、ものづくり地域貢献部門、プロジェクト安全支援部門の 5 部門を新たに設ける。各部門の業務を下記に示す。
 - 1) 共同研究支援部門は、浜松地区における機器分析業務ならびに共同研究での技術支援をおこなう。
 - 2) 教育支援部門は、学部での共通実験・実習ならびに各学科における学生実験の指導をおこなうとともに、各研究室での技術支援要請にも対応する。
 - 3) 情報支援部門は、全学における情報管理運営をおこなうとともに学部の情報教育支援、学部におけるネットワーク等の管理運営をおこなう。
 - 4) ものづくり地域貢献部門は、研究のための装置開発ならびに製作、学部における工作実習をおこなう。また学部での創造教育実習および小中学生、高校生への理科・工作講座などの社会・地域貢献事業の支援をおこなう。
 - 5) プロジェクト安全部門は、学部等におけるプロジェクトに対して、技術支援をおこなうとともに、全学での安全衛生業務をおこなう。

3. 2 新技術部の組織構成

・新技術部には、技術部長、総括技術長、技術長、部門長を置き。技術職員は各部門に所属する。

- 1) 技術部長は本学の理事が就く。
- 2) 総括技術長を1名置く。
- 3) 技術長を3名配置し、静岡分室に1名、浜松分室に2名置く。そのうち1名は、総括技術長が兼務する。技術長は管理職相当とする。
- 4) 部門長は7名配置し、静岡分室に2名、浜松分室に5名置く。
- 5) 技術部の運営等に関して審議するため、静岡大学技術部運営委員会を置く。委員会は技術部長、各学部の学部長、電子工学研究所長、総括技術長での構成を検討している。

4. 最後に

本学では技術部の全学組織化を目指し、鋭意組織化の作業を進めている。今回は現在の状況について報告をおこなったが、今後組織構成等変更になる可能性もあるので、その点についてはお断りしておきたい。正式に発足した新技術部については、今後機会があれば改めて報告をおこなう。